

ため池百選



長倉池をもっと知ろう！ とその周辺

兵庫県版レッドリスト（生態系）で A ランクに指定されており、多様な群落や、多種の植物、イチモンジタナゴやカワバタモロコといった希少な魚類が過去に確認されています。

ため池の北西側にある休耕田では、希少な植物種であるヤナギヌカボが優占する群落が成立しており、キカシグサ、ヒデリコ、ヤナギタデ、トキソウなどが出現。

一方で、畦道は外来種であるメリケンムグラが繁茂し、外来種であるニシノオオアカウキクサが一面を覆い尽くしている池があります。

ため池の西側一帯は面積約 2,500m² の湿原があり、チゴザサやアゼガヤ、イヌノハナヒゲ、ヤマラッキョウ、カガシラなどの湿原生植物がスポット的に生育しており、調査区では、スイラン、カモノハシなどの湿原生植物が出現した一方で、乾性草原に生育するチガヤや外来種のメリケンカルカヤなどの生育も確認しています。

調査区では、小型の湿原生植物であるホソバニガナ、ゴマクサ、ヒメナエが植生しており、これらの種は兵庫県内で分布地が限られる希少な種であり、ホソバニガナおよびヒメナエは最も希少性の高い A ランク、ゴマクサはその次の B ランクとして選定されているものです。



ため池百選 長倉池

平成22年6月に農林水産省より玉丘町の長倉池が「ため池百選」に選定されました。「近畿地方のミズトラノオの代表的な群生地」となっており、貴重な動植物が生息しているため池」と高く評価され、紹介されています。

長倉池周辺の状況



長倉池の様子



植生調査地点①



植生調査地点②



植生調査地点③



ニシノオオアカウキクサが一面を覆う池



ニシノオオアカウキクサ接写



メリケンムグラが繁茂する畦道



調査風景

★ため池等に生息する動植物の生態系の維持は、外来種の駆除や草刈りなど、関係者の積極的な関与が不可欠だと思います。ため池管理者、地域住民、保護団体などが、一丸となって環境保全や維持管理に取り組むことが重要です。

長倉池周辺で確認された主な植物



ヤナギヌカボ



ワレモコウ



リンドウ



ヒメナエ



ミズトラノオ



ゴマクサ



スイラン



オミナエシ(セイタカアワダチソウと混生)

水生動物調査

調査は長倉池とその周辺にある9つの池（計10池）で行いました。調査の結果、貝類（腹足綱、二枚貝綱）2科2種、甲殻類（軟甲綱）3科3種、昆虫類11科21種、魚類6科10種、両生類1科1種、爬虫類2科2種の計25科39種が確認されました。

希少種としては、昆虫類ではフタスジサナエ、ミズカマキリ、魚類ではドジョウ、ミナミメダカ、シマヒレヨシノボリの5種確認されました。

外来種としては、サカマキガイ、トガリアメンボ、アメリカザリガニ、ブルーギル、オオクチバス、ウシガエル、ミシシippアカミミガメの7種確認されました。

過去に希少種であるオオキトンボ、カワバタモロコ、イチモンジタナゴ、ミナミメダカ、オオタニシが確認されているが、今回の調査でも確認できたのはミナミメダカのみでした。特に、10池中1池ではミナミメダカの大きな群れがいくつもみられ、生息密度が高かったです。

今回調査を行った長倉池を除く小規模な9池のうち、特定外来生物であるブルーギルまたはオオクチバスが生息している池が3池あり、一方で希少種のミナミメダカが生息している池も3池で、いずれも池が重複することはありませんでした。これは、ブルーギルやオオクチバスが生息している池ではミナミメダカが捕食され消滅したと考えられます。なお、長倉池では両者が同所に生息していましたが、これは長倉池が面積約59,000m²の大きな池であり、地際植生が豊富で、水路の流れ込みなど多様な環境があるため、捕食を免れて生存できているものと考えられます。



ミナミメダカ メダカ科

全長4 cm程度。流れの緩い小川や水路などに生息し、動物プランクトンなどを食べる。

兵庫県ランク要注目、環境省ランクVU(絶滅危惧Ⅱ類)

兵庫県版レッドデータブック2017より

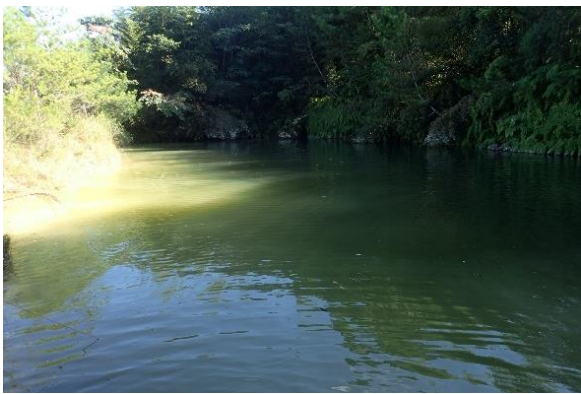
調査風景



長倉池の様子



池①の様子



池②の様子



池③の様子



タモ網を用いた調査風景



もんどの回収



定置網の回収



池③で捕獲した水生動物

考察およびまとめ

植生調査および植物相調査では、長倉池周辺の休耕田および湿原に重要な植物種の生育する植物群落が成立している状況が確認されました。特に、ホソバニガナ、ヒメナエ、ゴマクサなどは、県内でも分布地が限定される希少性の高い種であり、長倉池の生態系の希少性を表すものです。そのほかにも、ヤナギヌカボやミズトラノオなど、ため池やその周縁部に生育する希少種が豊富であり、本ため池は植物相の保全上、極めて重要な生態系といえます。

ため池の周辺に成立したこれらの生態系は、人為的な影響のもとで成立したものであり、休耕田や湿原の植生は、時間の経過に伴う植生遷移の進行で失われていくものです。また、休耕田へのメリケンムグラの侵入など、外来植物の侵入も確認されており、今後、外来植物の繁茂による植生の改変も進む可能性があります。特に、ホソバニガナなど希少性の高い種は、いずれも高さ 10cm に満たない小型の草本であり、植生の変化に対しては非常に脆弱であると推測されることから、状況を観察しながら植生管理などの対策を講じる必要があります。

水生動物調査では、過去に確認されているカワバタモロコやイチモンジタナゴといった希少な魚類は確認されなかったが、ミナミメダカの生息密度が非常に高い池が確認されました。この池は水深が浅く沼状になっています。近年、加西市内でコウノトリの目撃が相次いでいることから、水深が浅く沼状のこのような池は、コウノトリの餌場になる可能性が高いと考えられ、希少な生物の生息場所として非常に重要であると考えられます。

一方で、長倉池は特定外来生物のブルーギルやオオクチバスの生息が確認されました。しかし、地際植生が豊富で、水路の流れ込みや、水際線が複雑であるなど多様な環境があるため、モツゴ、ドジョウ、ミナミメダカなどの在来魚や、昆虫類が比較的多く確認されました。護岸化による直線的な水際線ではなく、現在のような複雑な水際線を維持することが、残された在来生物の保全のために重要であると考えられます。

ミズトラノオ シソ科

低湿地に生える多年草。茎は横にはう地下茎から立ち上がって、高さ 30-50cm になり、やわらかく、3-4 個ずつ葉を輪生する。

花期: 8 月~10 月

兵庫県版Bランク、環境省ランクV
U(絶滅危惧Ⅱ類)

兵庫県版レッドデータブック
2020 よりー



(令和3年度 加西市植生等調査報告書/(公財) ひょうご環境創造協会より抜粋・作成)

MEMO

かさい生物多様性レポート vol.1

令和6年12月発行

監修 加西市環境部環境課

発行 加西市

〒675-2395

兵庫県加西市北条町横尾1000番地

TEL. 0790-42-1110（代表）

0790-42-8719（直通）

ホームページ <http://www.city.kasai.hyogo.jp/>
